

第1回全体会議議事録

日時： 平成20年6月25日(水)

場所： 名古屋大学医学部内

医系研究棟1号館 地下1階 大会議室

出席者：主任研究者(浜島信之)、三上春夫、田中英夫、鈴木貞夫、松井健志、渡邊能行、古野純典、田中恵太郎、嶽崎俊郎、有澤孝吉、橋本修二、江口英孝、玉腰暁子、佐藤恵子、松尾恵太郎、鈴木勇史、安藤亮介、小笹晃太郎、三谷智子、尾崎悦子、桧垣靖樹、新村英士、平佐田和代、小川 信、常松典子、中村昭彦、川戸美由紀、片瀬史朗、深田裕子、近藤高明、堀容子、瀨本律子、鈴木洋子、近藤弥生、久保充明、中央事務局(若井建志、内藤真理子、菱田朝陽、森田えみ、石田喜子、岡田理恵子、川合紗世、木村悦子、増田まゆ子、服部秀美) 計45名

1. 主任研究者より、本年5月末までに31,000名以上の研究協力者が募集されたことが報告された。
2. 各コーホート研究実施グループ(千葉県がんセンター、名古屋大学、名古屋市立大学、愛知県がんセンター、京都府立医科大学、滋賀医科大学、徳島大学、九州大学[J-MICC連合]、佐賀大学、鹿児島大学)より、ベースライン調査・追跡調査の進捗状況が報告された。前回の全体会議以降、徳島地区(徳島大学)、大幸地区(名古屋大学)の調査が開始され、さらに京都フィールド2(京都府立医大)の調査が開始予定である。
3. 理化学研究所の久保先生より、最近のゲノム研究の状況(ゲノムワイド研究と候補遺伝子研究)、ならびにhigh throughputのSNP測定方法(Infinium法、インベーター法)についてご講演いただいた。
4. 現在予定されている、中央事務局保管分のbuffy coatを用いた、生活習慣・検診結果と遺伝子多型との関連に関する横断研究に関係して、愛知県がんセンターの松尾先生、九州大学の古野先生、福岡大学の桧垣先生(佐賀地区)、名古屋大学の菱田より、それぞれアルコール代謝の関連遺伝子多型、葉酸代謝の関連遺伝子多型、アディポネクチンの関連遺伝子多型、その他のメタボリック症候群関連遺伝子多型についてのレビューが発表された。
5. 理化学研究所にて、横断研究用に測定する遺伝子多型について、主任研究者より、各コーホート研究実施グループが現在、主任研究者に提出している遺伝子多型の優先順位を、本全体会議での講演・レビューも参考に再検討した上で再提出いただき、運営委員会で測定する多型のリストを決定することが提案された。これについて、(1) 現在提案されている遺伝子多型の多くは、すでに欧米で有意な関連が認められたものである、(2) 横断的研究といえども、がんにより特化した研究をすべきである、(3) 葉酸代謝の関連遺伝子多型のように、血清・血漿成分の測定と結びつけないと意義の少ない場合(遺伝子多型)がある、(4) がんを意識しようとしても多型を選びにくい、(5) 将来、がんとの関連を必ず調べる多型であれば、対照群を確保する意味で、今でも検討しても良いのではないか、(6) Tag SNPを用いるなど系統的な遺伝子多型の決定をすべき、などの意見が出された。主任研究者より、各コーホート研究実施グループで興味のある遺伝子多型でないと、論文発表にまでつなげることは難しいとの反論があったが、会議中に測定遺伝子多型を決定することは難しいため、別途ワーキンググループを1・2回開催し、8月末を目標に決定することとした。